

## 国立駅舎の文化財について

ものづくり大学  
教授 白井裕泰

### 1. 文化財とは

オーセンティシテイ (Authenticity) 真実性

- ・ 意匠、材料、技法、場所  
1994 年 11 月奈良国際会議
- ・ 形態と意匠、材料と材質、用途と機能、立地と環境、精神と感性、その他内的外的要因を含むもの

### 2. 文化財から見た国立のイメージ

時代	地域	文化財
古代	立川段丘面	下谷保古墳群
中世	立川段丘面	谷保の城山
江戸	甲州街道沿いの集落	谷保天満宮、南養寺。本田家住宅、柳沢家住宅
明治	甲州街道沿いの集落	明治期の住宅
大正	国立学園町	一橋大学兼松講堂、国立駅舎
昭和初期	国立市全域	滝乃川学園本館、チャペル (ル・ヴァン・ド・ベール、住宅)
昭和後期	国立市全域	(公共建築、商業建築、マンション住宅)

### 3. 駅舎の文化財的価値

駅舎のシンボル性

- ・ 洋風住宅のモデル的デザイン
- ・ 国立のランドマーク
- ・ 大学通りのアイストップ
- ・ 都市計画道路との形態類似
- ・ 市民の駅舎への愛着

#### 駅舎の意匠的価値

- ・ 現存する希少な大正期駅舎建築
- ・ デザインや駅前広場の作り方など、他の駅に強い影響を与えた
- ・ 欧米の田園都市住宅のデザインを駅舎に導入した個性的な意匠
- ・ 兼松講堂とのデザイン的な呼応関係

歴史的または学術的価値の高いもの

#### 4. 解体保存

##### 文化財としての位置付け

- ・ 当初復原が可能
- ・ 建築基準法への対応—防火地域の建築制限
- ・ 構造補強が可能

##### 解体復原と文化財的価値

- ・ 近代建築の明柏村への移築保存
- ・ 民家の移築保存

##### 解体時の留意点

- ・ 基本的に軸部木材（骨組）の保存
- ・ 内外装材はサンプル保存
- ・ 窓枠・窓台の保存
- ・ 解体前に作成した図面のチェック
- ・ 解体前に分からなかった構造技法の調査
- ・ 解体部材が傷まないように保存方法に注意する

#### 5. 復原

##### 大正 15 年建築当初に復原する

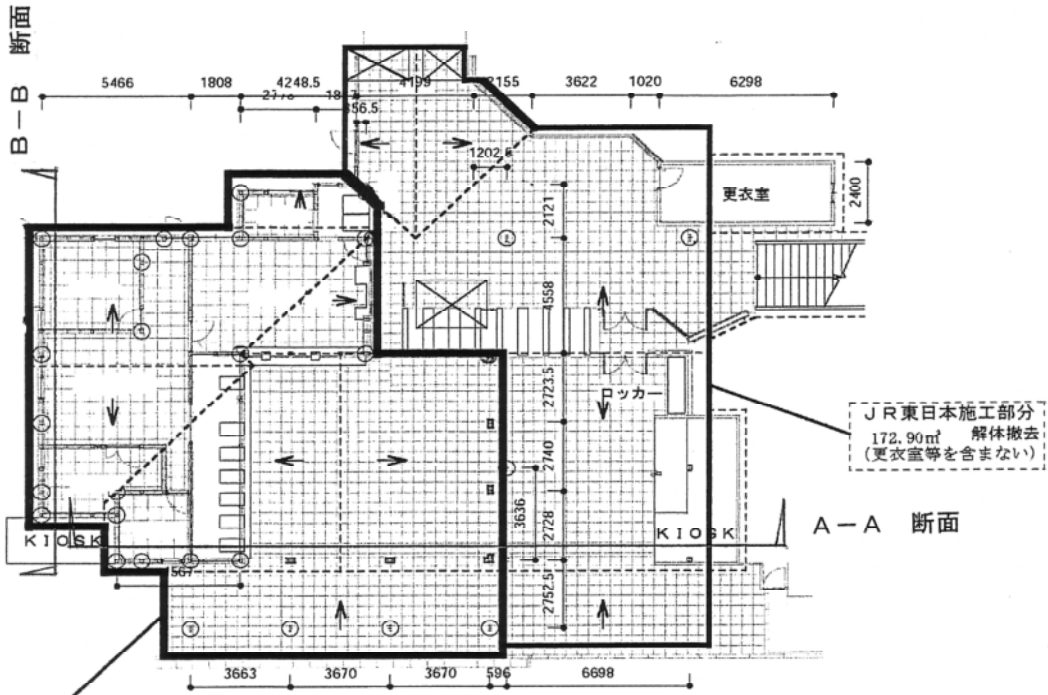
基本的に現在の位置に復原する—大学通り軸線から微妙にずれた位置に意味がある

##### 活用手法の検討

#### 6. その他

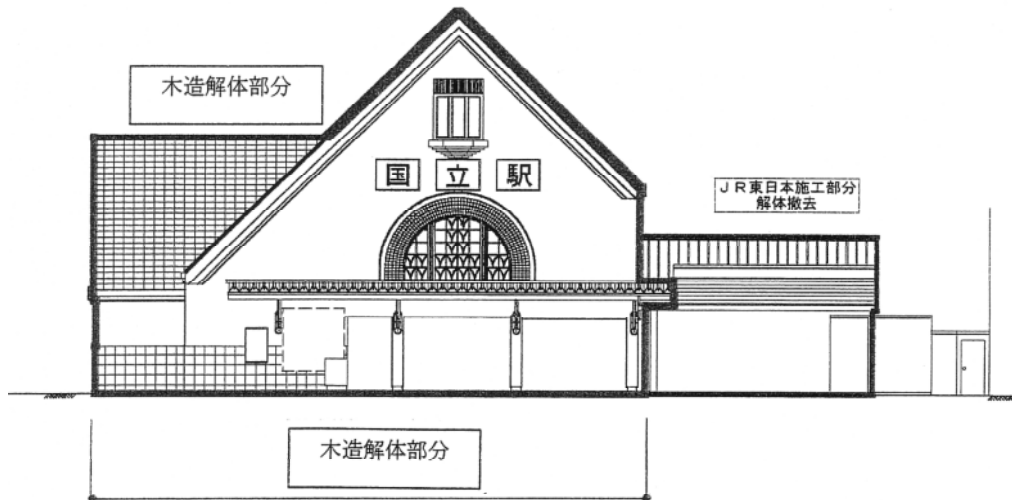
##### 文化財保存の意義

- ・ 環境と文化財
- ・ まちづくりと文化財
- ・ 市民生活と文化財

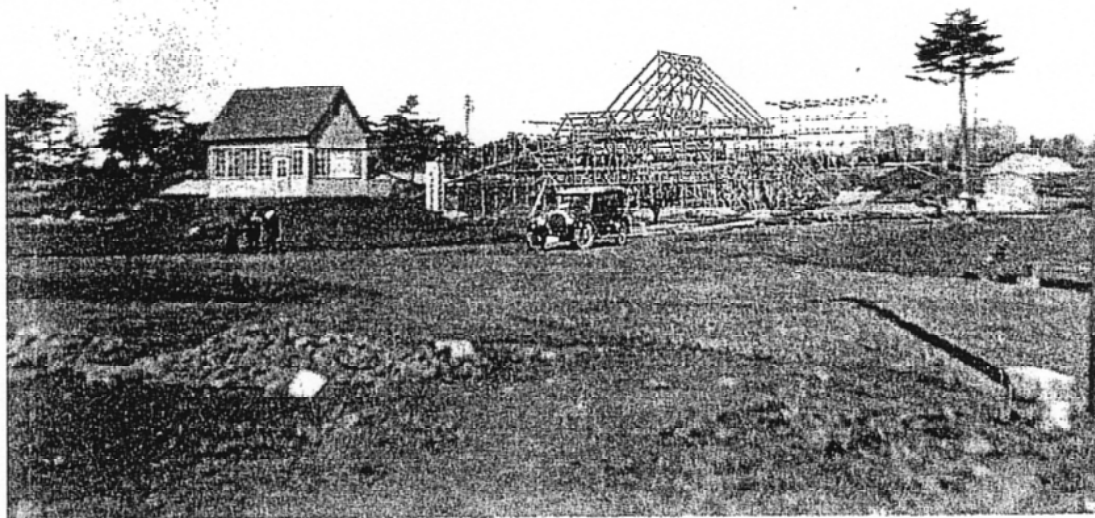
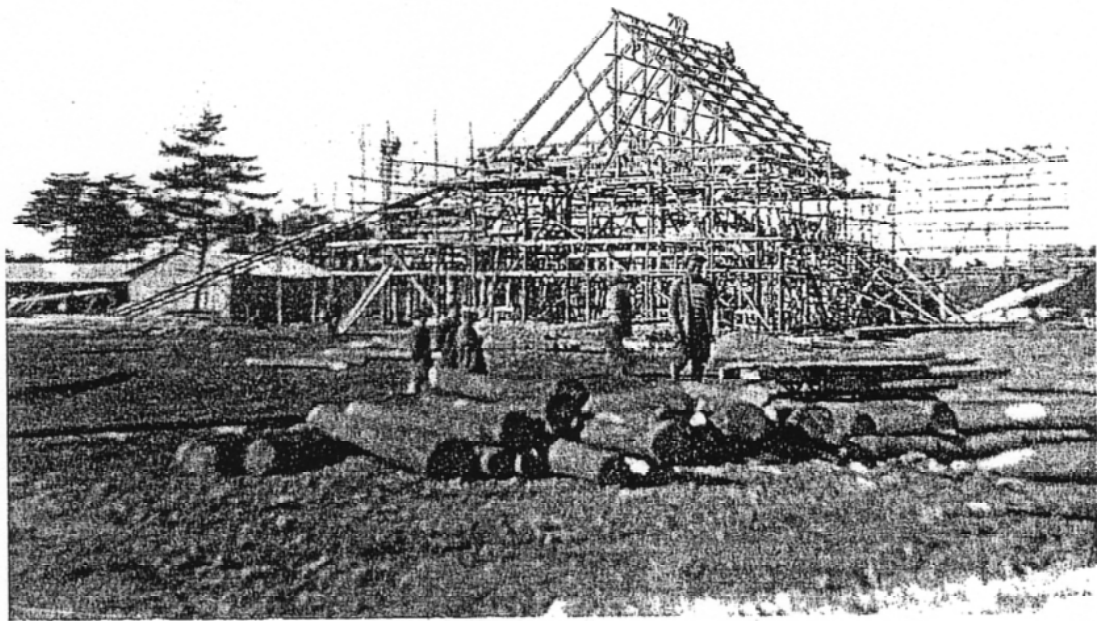


木造解体部分  
 木造部分 : 191.85㎡  
 鉄骨部分 : 29.75㎡  
 合計 : 221.59㎡

N  
 JR国立駅舎 (平面図)



JR国立駅舎 (南立面図)



くにたち・商店街形成史より